

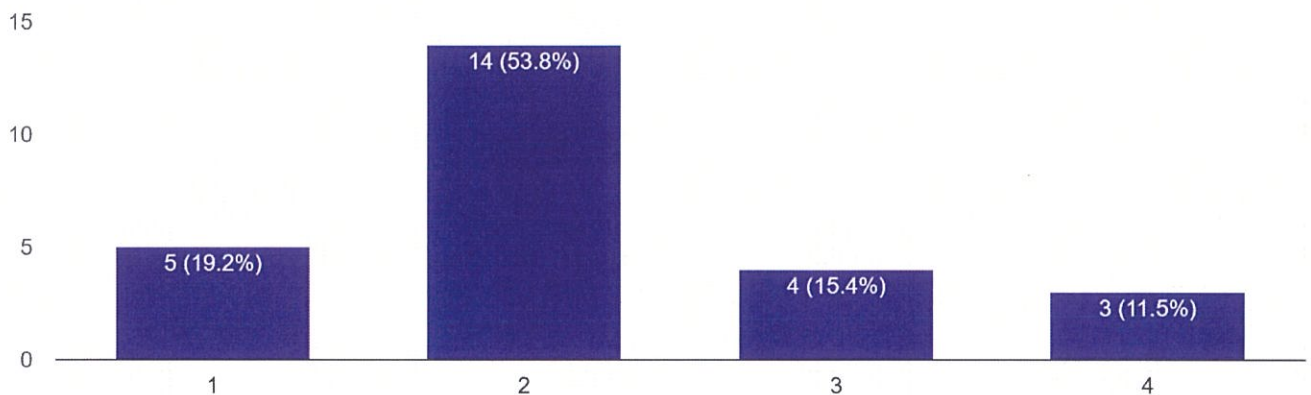
- ・療育指導があった際は、園内研修等で簡単な報告があると職員間の連携がとりやすくなり、保育を深めていけるのではないかと考える。
- ・研修で学んだ事を活かしていく。

5 【V. 地域との連携】 地域の人々・自然とのかかわり

- ・散歩や公共施設等において、高齢者や地域の人などとのかかわりを持ち、愛情や信頼を持てるよう取り組んでいる。

【V. 地域との連携】 5地域の人々・自然とのか...ち、愛情や信頼を持てるよう取り組んでいる。

26件の回答



【上記取組の成果】

- ・散歩中にお会いした方には、保育者から挨拶をし、子どもたちにも挨拶の仕方を知らせていった。
- ・園周辺の散歩等を通して地域の方々と挨拶を交わしたり、防火パレードなどで園児の活動を知っていただくことができた。
- ・神社に行く際に地域の方に挨拶を心がけるなどかかわりを深めていった。
- ・散歩等で地域の人に会うと、積極的に挨拶や声をかけている姿が見られた。
- ・地域の方に挨拶はできている。またお遊戯会でZホールを使用する際、約束を守ることができた。
- ・天気の良い日には、戸外で遊ぶ他に季節を感じながら散歩を楽しめるよう取り入れたり、遊べるよう工夫し取り組んだ。
- ・散歩中や子ども食堂などで地域の方との交流を行い、コミュニケーションを取ることができた。
- ・こども食堂を通じ、地域の人々や高校生との関わりを持つことができた。
- ・散歩をしている最中に、積極的に挨拶をしたり会話を交わすなど行った。
- ・散歩や戸外遊びで地域の方々と交流する機会を持ち、子ども達も「こんにちは」などと保育者の姿を見て挨拶する姿や話しかける姿も見られた。
- ・コロナ禍もあけ、地域の行事や施設へ訪問したり、来園もあり園外の様々な人と関わりが持つ事ができ、園内ではできない経験ができた。
- ・散歩で挨拶できた

- ・戸外へ積極的に出掛け、自然と地域の方々との挨拶や簡単なお話等、安全に留意しながら園舎外で出来る経験に繋がる活動を設定するようにした。
- ・散歩に出かけ神社等で地域の方に会った時に保育者の方から挨拶をするようにし、その姿を見て子ども達も挨拶をしていた。
- ・地域の方々との交流を深める機会を設ける事が難しかった。
- ・子ども食堂や田植え競技会、ハーバリウム体験等を通して地域の方と交流することができ、子どもたちもかかわりの中でその活動について興味を深めたり、学ぶことができた。
- ・散歩など地域の方に保育者が積極的に挨拶を交わすなど関わりをもち、その姿を子ども達も真似し挨拶をするなど関わる姿が見られた。
- ・3歳未満児については、お散歩に出かけ地域の方々との触れ合いを通して、愛情や信頼関係を育んでいる。
- ・散歩の時、挨拶をするようにした。
- ・園外での活動が少なかった為、関わり等を持つことが出来なかった。しかし子ども食堂に来ていた子どもは地域の高齢者と関わりを持ってている姿が少しではあったが見られた。
- ・お散歩の際に、地域の方々に笑顔で挨拶をする等信頼を得られるよう努めることが出来た。
- ・散歩を通して、地域の方々との関わりを持つことができた。
- ・大きな行事等では、少ない時間だが関わりを持ち取り組めた。
- ・近くの公園や神社等に散歩すると、自分から地域の方に声を掛ける姿があり地域の方も嬉しそうにしていた。散歩の回数を重ねたことで、行き慣れた場所となり子ども達は安心して親しみを持てたのだと感じた。
- ・お散歩の時は元気よく挨拶したり、道を譲って貰ったときはお礼をした。

【上記取組の今後の課題】

- ・公共施設へ行く機会が少なかったため、機会を設けていきたい。
- ・地域の方々との交流する機会はなかなか取る事ができなかった。
- ・地域の方を招く行事の開催を検討したい。
- ・高齢者とのかかわりができなかったので次回はできるように計画、実行していきたい。
- ・地域の方々と一緒に出来るものはないか考えていく。
- ・愛情が持てるまでの関わりが出来ていない。散歩も公共施設を使用する機会も少ない。
- ・コロナウィルスもあり、地域の方との交流の機会が薄れている。
- ・これからも続けていき、信頼を獲得できるようにしていく。
- ・こども食堂に限らず、園の活動でも特定の人との関わりになりつつあるので、もっとたくさんの方へのアプローチが必要かと思う。
- ・今後も継続して、お散歩などを通して、高齢者や地域の人と関わる事が出来るよう取り組んでいきたい。
- ・園内で関わる機会はなかった為、もっと交流の場があっても良いのかと感じている。
- ・今後更に園外での活動に取り組んでいけると良いと思う。また、地域の方と関わる中でより丁寧な言葉や関わり方を伝えていけると良いと思う。
- ・何かのイベントごとの時だけでなく普段の保育の中で散歩に行くなど身近に関わる機会を増やしていきたい。
- ・これからもたくさん散歩する
- ・日々の周囲の安全点検を引き続き行っていく。慣れが出ないようにする。
- ・地域の方との交流を大切にしていきたいが、その反面不審者などにも気をつける。

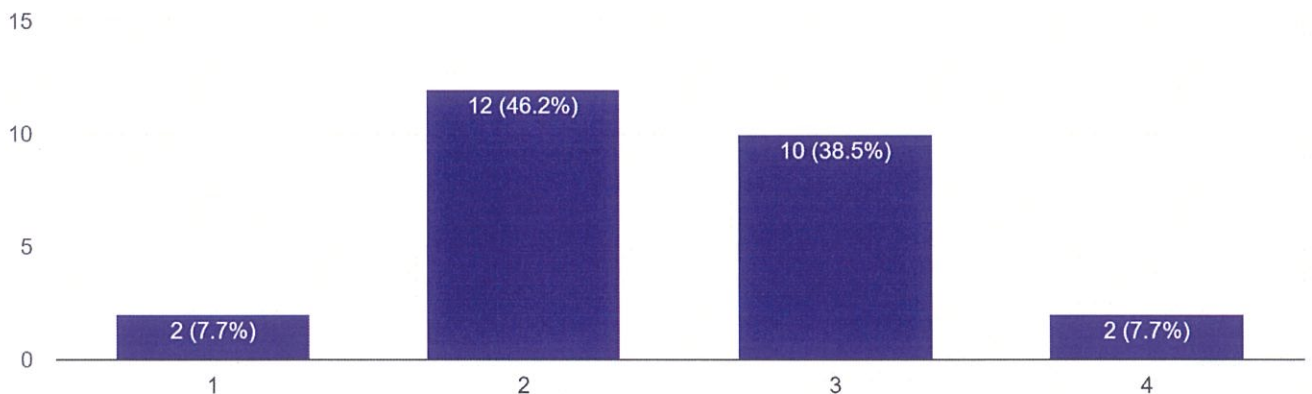
- ・全員で散歩、交流する事は難しい為、数人ずつ、期間を分けるなどして行うなど活動方向を柔軟に変えながら保育に組み込んでいく。
- ・感染症が落ち着いている時期に、地域の高齢者施設慰問や、行事等を一緒に行ったりできるようにしていきたい。
- ・子ども達自らが率先して関わりをもてるように、今後も保育者がお手本となるように関わっていく。
- ・3歳以上児については、園内環境で過ごすことが多く、地域とのかかわりが少ないため、再度地域資源を見つめ直して、こども達と話すことで保育につなげていきたい。
- ・園外での活動を取り入れながら自然物や地域交流を活発化していけるよう環境を整えていく。
- ・引き続き、子どもたちと一緒に笑顔で挨拶をすることを心がける等信頼を得られるよう努めていきたい。
- ・感染症に配慮しながら、施設等に出向いたり、地域参加型の催しができないか思案したい。
- ・今後も続けていく。
- ・今後も散歩を通して地域の方との関わりが持てるよう、職員が手本として基本的な挨拶からしっかりとしていく。

6 【V. 安全衛生管理】安全への配慮

- ・怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行ったり、子ども達に対する安全教育を定期的実施している。

【V. 安全衛生管理】 6 安全への配慮 ・怪我や...も達に対する安全教育を定期的実施している。

26件の回答



上記取組の成果】

- ・環境を見直し、安全教育を実施したことで、職員の意識も高まり、怪我や事故も減少してきていると感じる。しかし、まだまだ見直す箇所はあるため、継続して行っていく。
- ・園内・園庭での過ごし方、遊び方について、定期的に子どもたちと話し合う場を設けている。
- ・怪我や危険なことはないか職員間で見守る場所を振り分けたりしながら協力してきた。
- ・怪我などがあつた際は、子どもたちと話し合いをし、危険なことや危ない事を再確認した。
- ・怪我が多くあり、その都度原因を考え対策した。

- ・学年間で話し合い、環境を提供したりすることで安全に遊んでいるが、遊んでいく中で危険な遊びをしていたりする場面を見たら、除外したり常に安全に遊べるよう提供している。
- ・環境を例え、怪我が起こりやすいところはあらかじめ子ども達に伝えることができた。
- ・経営コンサルタントの方に園内を見ていただいた結果が良くなかったため、環境の改善を図ったところケガ・事故が起こりにくい環境に変化した。
- ・安全面に注意し、怪我しないよう言葉掛けをすると同時に、環境設定にも注意した。
- ・日々、危ない所はないか確認しながら環境構成を行うことができた。
- ・子どもの予期せぬ動きが怪我に繋がることやそれぞれの発達段階に応じて危険箇所も変わる事などを気づかされ、怪我防止に努めることが出来た。
- ・活動やあそびが切り替わる際に安全面の言葉がけを繰り返し行なってきた。
- ・口に入れないようになってきた
- ・安全を第一にしながら子どもたちが自分で遊びを選んだり見つけたり出来るような環境設定を心掛けている。月齢に応じた室内になるようにする為、今年度は途中でベビーサークルを撤去した。
- ・新年度が始まってすぐにケガが起こってしまったが、環境を見直して今の子どもたちに合うようにした。
- ・定期的に声をかけ、安全に配慮していたが、急な転倒（何もない所）や保育室の飛び出し、高い所へ登る、走るなどの突発的な行動を取る子が多く対応しきれない事が多かった。
- ・物の使い方や、遊び方については、子ども自身が遊びの中で経験し、考えられるように子どもたちと話し合う機会を設けた。
- ・危険な場所や遊び方で危ない時は、都度声がけを行い、安全に過ごせるようにした。
- ・昨年末は、職員の連携が不十分で人任せの状態となっていたこともあり、環境が悪く 10 月後半から 12 月にかけて怪我や事故が相次いで発生した。
- ・周りの環境には、危険な箇所がないか？目を配るようにした。
- ・なぜ危ないのか等を分かりやすく伝え、危ない場面があった際には話をし、やらないように伝えた。また、怪我が起きた際には環境を改めて見直し、今後起きないよう情報共有を行い、改善に努めた。
- ・子どもたちの成長に応じて安全に遊びを楽しめるよう活動を考え、見守り保育することが出来た。
- ・3 歳未満児棟内の環境を整え、怪我のないよう職員間で配慮した。
- ・言葉がけは随時行なっていたが、環境構成、整備等で不足な部分があった。
- ・未満児クラスとして衛生面に気を付け保育室内の消毒を定期的に行った。
- ・園内研修で怪我について全体共有できたのは、意識向上となった。
- ・危ない所は、前持って改善した。

【上記取組の今後の課題】

- ・全職員が躊躇なく、意見を伝え合えるような雰囲気にしていく。
- ・今年度は通院を伴う怪我が多かった。安全点検、環境整備を実施し、子どもたちの遊びに合わせて環境を見直していく。
- ・今年度は怪我が多く、全体への見守りが手薄になっていた。なぜそうなってしまったのか職員が…自覚を持って取り組んでいかななくてはならない。
- ・怪我が多かったので、環境には十分留意し改善していく。
- ・怪我を想定した点検ができていなかった。毎日環境点検を行なってるにもかかわらず、安全教育

をした上で外遊びをさせていない。

- ・ 戸外での事故や怪我に対して、遊び方の確認を子ども達へ伝えるなど、一緒に考えることを心がけながらあそびを伝えることなど今後も配慮していく。
- ・ 外遊びが増える時期になる為、より環境を整え安全管理を行う。
- ・ また、職員内で情報共有する。
- ・ 外部の方からの指摘による環境の改善だけに頼らず、自分たちで気が付き、改善し、それを継続していくこと。また、近年はケガ・事故の発生件数が多いのでその原因は何かを環境以外の面からも原因究明する必要がある。
- ・ 怪我のないよう注意していきたい。
- ・ 遊戯室などお部屋以外の場所や異年齢交流時は特に目が届きにくく、走って転倒するなどの危険もあった為、大きな怪我に繋がらないよう部屋以外でも安全に遊べるよう環境をこまめに見直すようにする。
- ・ 安全点検をしっかり行い、環境を整え、子どもたちにも繰り返し伝えていく。
- ・ 怪我等が続いてから見直すのではなく、常日頃から危険箇所や子ども達の遊び方等確認し話し合っていく必要がある。
- ・ 引き続き声がけする
- ・ 怪我等が起きた場合、なぜそうなったのか、理由を振り返り今後の対策にあてるようにしている。
- ・ 子どもたちを良く見て、その時々合う環境をつくる。
- ・ 支援の必要な子へは出来るだけ職員が側に居られる体制を整える。
- ・ 園庭や園内の環境点検を行い、危険箇所等があれば速やかに改善し、職員間で声を掛け合っていく。子どもの目線に立って環境を整えていく。
- ・ 発達に応じた体の動きも理解し、安全に過ごせるように定期的に安全教育をしていくようにする。
- ・ 毎日の安全環境点検を実施し、その結果をスラックで報告し共有を行うようにして。危険物の除去を遅滞なく取り組めるようになった。
- ・ 起きてしまった際には環境や人員配置をすぐに見直し改善していく。また日頃から危険物や
- ・ 引き続き、子どもたちが安全に遊びを楽しめるよう保育環境をしっかり整えて見守っていきたい。
- ・ 外周りの環境や安全対策に配慮が足りなかった。職員間で気付き対策できるよう環境点検を定期的に行う。
- ・ 声掛けは引き続き行い、不足しているところは気付いたらすぐ共有し、すぐ改善する。
- ・ 低年齢になるにつれ、安全への配慮は環境構成が重要と考える。職員間での情報共有をしっかりと行い環境を整えていく。
- ・ 小さな事でも、みんなです話し合いあっていく。